

「クエストカップ2025 全国大会」

日本最大級の探究学習の祭典「クエストカップ2025 全国大会」(主催：クエストカップ実行委員会、協賛：イオンリテール他、後援：経済産業省、文部科学省、山形県教育委員会他)が、2月11日(オンライン)、22日、23日(法政大学)の3日間で開催されます。今年度は、全国の中学校、高等学校490校約10万4千人がこのプログラムで学習。そのなかで、合計5,592チームが全国大会に応募。厳正なる審査の結果152校286チームが全国大会への出場を決定しました。

本校からは、2学年の全チームがエントリーできましたが惜しくも全国大会には進出できませんでした。

3学年からは、2チームが11日に行われた1stステージにオンラインで参加。審査の結果、残念ながら2ndステージ(法政大学)には進めませんでした。全国大会で自分たちの学びの成果を堂々と発表しました。

優秀賞受賞(全国大会出場 おめでとう!!)

本校は、ソーシャルチェンジ部門(社会課題探究コース)には初出場。昨年度、コーポレートアクセス部門(企業探究コース)で全国大会に出場した経験を持つ生徒2名を含む2チームの8名が堂々とプレゼンテーションを行い、全国に中山中学校の探究学習の成果を発信できました。



コーポレートアクセス部門 全チームエントリー



審査員より全チームにコメントが届いています。

グーグルクラスルームから読んでください。例 【鴻池組】

未来の世代である皆さんが思い描く未来の社会を聞かせてくれて、ありがとうございます。鴻池組インターン生のうち一定数が一度は考えてみたであろう、現代で実用化が進む技術がVRです。しかし、VRという既存技術自体で提案を考えると今の提案になってしまいます。VRの先にある、現在の技術水準で実現できないものごとへ視線を向けたことで、ほかにはないユニークな提案となりました。今後、皆さんが社会に出た時、これまで世の中になかったものごとでも思い切って提案する勇気が必要になりますから、今回とてもいい経験をされたと思います。またプレゼンテーション面では、ドラえもん「どこでもドア」を提案書に組み込んだことで、皆さんの保護者世代だけでなく、祖父母世代にも伝わる提案となりました。全世代が直感的に理解できる表現を見つけて組み込めると、勇気ある提案に訴求力を付け加えることができるので、こちらとても重要な要素です。さらに提案を改良するとすれば、この建物はどこに設置すると効果的かという問いについて考えてみるとよいと思います。

特に中間報告から最終発表までは、短い限られた時間でした。しかし、ミッションの解釈、プレスト、企画の検討、プレゼン練習、シナリオ、スライドづくり、プレゼンテーションまで、どのチームも仲間と協力しながら、期日を守りゴールめざしてがんばりました。